

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400381		
法人名	(株)メディカルオフィス・創健		
事業所名	グループホームひなた園 1F 木ユニット		
所在地	北海道函館市湯川2丁目16番1号		
自己評価作成日	平成30年3月2日	評価結果市町村受理日	平成30年3月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2014.022_kan=true&JigyosyoCd=0191400381-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとお過ごしいただけるよう、8畳分の個室と、ユニット型のフロア、対面キッチンを用意しました。サポートドクターと密に連携しながら適切な医療連携につながるよう取り組んでいます。必要と思われる場面では、速やかな退院支援に結びつくように、医療連携室の相談員と連携しています。今年度は、近所のお寺さんのイベントに参加するなど、地域資源との連携に幅が広がりました。引き続き、生活風景に多様性が生まれるよう地域資源とのつながり強化に取り組んで参ります。ご家族が安心してサービスに関与できるよう、家庭的な関係性の中で家族支援が行われるよう取り組んでいます。十分にできているわけではありませんが、必要とされるご家庭についてはご家族を含めて支援させていただきます。今年の運営推進会議は、毎回テーマを設けて開催しています。テーマを通じて、ご家族と共に介護にかかわる学びと考える場づくりに取り組んでおります。今年度は、学びに力を入れています。毎月の社内勉強会や、外部研修、事業所の理念に基づいた介護が成り立つよう各自目標を設定するなど、サービスの質向上に向けた努力を続けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームひなた園」は、函館駅より北東へ車で15分程の距離で、近くに湯の川温泉街がある静かな住宅街に位置し、近所にある古くからの八百屋、魚屋と目の前のコンビニエンスストアとは日頃から利用し馴染みの関係を築き、銭湯や足湯、桜の名所が散在し日常的に楽しめる場所もあり、落ち着いた生活環境下に立地している。建物は鉄骨造り2階建て、2階の多目的ホールはお雛様を飾ったり行事や会議等様々に活用している。今年度から新たに主任制度を導入して職員の意見や要望を汲み取りやすくし、主任以上が出席する管理者会議で検討し、運営に迅速に活かす工夫をして就業環境を整え、職員のモチベーションアップにつなげている。外出の機会も多く、日常的な散歩、花見や紅葉狩りなど、季節毎の外出に加えて個人的に馴染みの喫茶店に行く利用者の支援をしている。施設長は、多様な支援の確立と職員自ら仕事の意義を見出すきっかけ作りの一環として、利用者一人ひとりの人生を描いた「私の物語」の絵本作りに着手している。地域との交流も積極的に行い、地域のお寺のイベントと連携して「まちかど映画館」と称してDVDの映写会を今年度は2回開催している。頂いた鑑賞料金は利用者がお菓子などを手作りし、参加者に還元している。地域の方と共に利用者の穏やかな生活を指向している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F 木ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の基本方針に沿って、各職員が『今年のケアの目標』を立てています。その目標が事業所の理念の実践に繋がるよう、個別に相談・支援しています。	管理者は、理念の「住み慣れた地域で、その人らしく」を毎月の会議で話して介護の基本である旨を意識づけ、職員は個々に目標を定めて実践に活かせるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年は、近所のお寺の地域イベントに参加しました。新年会を通じた交流などがあり、事業所の存在を暖かく迎えてくださっております。	町内会に入会しクリーン作戦や盆踊りに参加したり、花火大会も見学して楽しんでいる。地域のお寺のイベントではDVDの映写会を開催して、地域の方が楽しめる場を利用者と職員と一緒に作っている。今後は実習生やボランティアの受け入れも積極的に行う予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は、地域住民の集いの場に顔を出すよう心がけており、相談を受けた場合は、適切な介護サービスに繋がるよう支援の窓口になっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎回、テーマを設け、御家族一人ひとりのお考えを共有する、または事業所の運営方針に対する理解を深める場として機能しております。	年6回地域の方や地域包括支援センター、家族の出席を得て開催し、日頃の生活振りやヒヤリハット・インシデント、行事などの報告をして意見交換をし、透明性のある会議となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営にかかわる事柄は、市役所に問い合わせ都度、確認を取りながら進めております。	行政とは介護保険の申請、更新手続き時に直接出向き、些細な事でも相談や情報交換をして顔見知りの関係を構築し、協力体制をしっかりと築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内に『リスクマネジメント委員会』を設け、身体拘束の定義や運用の実際について、勉強会を開催しております。特に、倫理3要件の周知を図っています。	リスクマネジメント委員会が中心となって毎月勉強会を行い、身体拘束によるリスクについて理解を図っている。身体拘束に関する運営規定や身体拘束廃止マニュアルは、職員がいつでもでも閲覧できる様にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の趣旨が理解されるよう、社内試験を実施しています。事業所内の『リスクマネジメント委員会』において、不適切なケアにかかわる勉強会を開催しております。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F 木ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は「成年後見制度」について自己学習しております。制度利用の必要性がある御家族には、予め説明することが可能です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、毎回、重要事項説明書の読み合わせを行っております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が面会に来られる際に意向を確認しております。面会ない御家族には、お電話にて御家族の意向を伺うよう配慮しております。	各ユニットに意見箱を設置したり、家族からは面会時や電話の際に些細な事でも話しやすい様に雰囲気づくりに配慮している。介護計画の更新時や運営推進会議などでも意見や要望を伺い、家族アンケートも継続して実施する意向である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主任制度を採用し、管理者会議の場を設けることで、介護現場と管理者が同じ方向性で仕事ができる環境を作っています。	管理者は年2回個人面談を行い、主任の意見も参考にしながら人事考課を行って職員のモチベーションアップにつなげている。主任を導入して職員からの提案や意見を聞く機会を多く確保し、表出した意見は施設長と検討して、よりよいケアサービスに努めている。介護記録記載方法の改正や書式見直しにも着手している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業指針の作成と掲示、主任制度の導入、管理者会議の開催、管理者との個別面談、全体会議での勉強会、これらの活動を通じて、働き甲斐ある職場環境の構築に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人目標を設定し個人面談を実施、スタッフ個々人の成長課題を把握しています。社内試験の実施を行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム協会の活動への参加を通じて、協会の方針に沿ったサービスの質の向上に取り組んでおります。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F 木ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時やケアプラン更新時に、生活にかかわる意向を本人に確認している。入居後も本人の意向に関する情報は、都度スタッフ間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時は、事前に家族への聞き取りを行い、サービス内容に家族の意向が反映されるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の時点で、グループホームがどのようなサービスであるか説明し、現在の生活環境と比較検討できるよう案内しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活場面において、主体的に参加していただけるよう、適宜声掛けをしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族には、地域イベントへの参加や外食、病院受診など、支援が必要とされる場面で、できる範囲の事柄への関与をお願いしております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切な人との関係性が続くよう必要な支援を行っています。たとえば、ある利用者様は自宅に居る時と同じようにして、毎週、教会へ通い続けることができます。	職員は「住み慣れた地域で、その人らしく」の理念を大切にして、教会のミサに通っている利用者のサポートをしたり、馴染みの喫茶店に行く利用者同行し、習慣や馴染みの関係が継続出来る様に支援している。知人や友人と直筆の年賀状やクリスマスカードを交換して関係が途切れないように努めている利用者を見守っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	基本的に自由に生活していただくようご案内しておりますが、介護職員含めて、各入居者様が良好な人間関係を育むことできるよう配慮しています。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F 木ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、支援が必要とされるご家庭については、適宜、相談支援に応じております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活場面での何気ない会話や、その時々表情などから、本人が現在の生活をどのように感じてもらえるか、把握するよう心がけております。	日頃から仕草や態度、表情など些細な事でも見逃さない様に心がけ、思いや希望を汲み取り、一人ひとりの意向が叶うように努めている。職員と馴染みの関係が出来る、「いつまでもここに居たい」と話す利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にいただいたフェイスシートやアセスメントの情報だけでなく、本人や家族からの聞き取り情報を重視して支援につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りにて、変化や出来事にかかわる情報を細目に共有し、必要な場面で支援内容を柔軟に変化させております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングならびにサービス計画は、本人や家族へ意見を伺うことはもちろんのこと、現場の介護職員の意見を下地としながら作成しており、現状に即した計画になるよう取り組んでいる。	居室担当者が中心になってモニタリングを行い、検討会議を行って現状に即した介護計画を作成している。更新は定期的に行われているが、状態の変化や新たなニーズが見つかった時は再度検討を重ねて状況に合った計画になる様に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を作成し、ケアプランの実施内容とその他の実施内容を区別できるように記録しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	昨年は、地域イベントへの企画段階からの参加を実施しました。利用者様が主催の一人となって、地域づくりに貢献する場面だったように思います。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の喫茶店の常連客となって、よく利用しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来のかかりつけ医の受診が継続するよう配慮しています。細かい連携が必要な場面では、事業所サポートドクターと連携し、適切な医療選択に繋がっています。	かかりつけ医は本人や家族の希望を優先し、受診や通院は家族と協力しながら行っている。サポートドクターによる往診が月2回行われたり、日頃から連携を密にしている。看護師が日常の健康管理をして、24時間安心できる医療体制を整えている。	

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F 木ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には、準看護師を配置しており、随時連絡できる体制を整えており、サポートドクターとの連携に繋がっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急性高い場面では、受診前に事前に病院に連絡しています。退院案内があった際は、速やかな退院支援に繋がるよう受け入れ態勢を整えるよう取り組んでおります。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針、ならびに終末期指針を作成し、個別の状況に応じて説明を行っております。また、運営推進会議を通じて家族と一緒に終末期介護を学ぶ機会を作っております。	重度化に関わる指針を作成し、契約時に本人や家族に十分説明して同意を得ている。本人の状態の変化に応じて医師や家族、事業所が随時意思を確認しながら方針を共有し、安心して納得した最期を迎えられる様に取り組んでいる。看取りの経験があり、終了後は振り返りを行って研鑽を積んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内にリスクマネジメント委員会を設け、緊急時対応にかかわる勉強会を開催しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の自衛消防訓練を実施しています。社内試験の問題にも組み込むことで、全職員に事業所の方針を理解していただくよう努めています。	年2回、火災を想定した避難訓練を消防署の指導の下、初期消火の手順の説明やアドバイスを受けながら行っている。今後は水害を想定した訓練も検討している。備蓄品は水の用意をしている。	火災や様々な自然災害の避難時に非常持ち出し品として、利用者の氏名や処方箋、家族の避難場所などの情報を記載したカードを準備してすぐに持ち出せるような場所に保管して置く取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護職に必要とされる職業倫理観を意識して、日頃から仕事に従事するよう指導しています。	介護の基本は礼節と考えて対応し、呼び方は本人や家族と相談して馴染んだ心地よい呼び方に決めている。書類の保管、管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	事前の意思確認はもとより、日常会話の中から本人の意志を汲み取るよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に合わせた生活の提案や、直近の生活ぶりを踏まえた関わりなど、本人の意思表示以外にも配慮すべき点を日頃から話し合っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り、本人の意志確認を行いながら進めています。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F 木ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食事の好みや口腔状態に応じて、食事形態を選択できるよう、柔軟に対応しています。	献立は利用者の希望を取り入れ、食材は利用者も同行して近くの八百屋や魚屋、スーパーで購入している。お刺身を食べる会を行ったり、いも餅を作り、菜園で収穫したきゅうりは漬物に、ミニトマトはサラダにして食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的に、バランス良い栄養確保に配慮して食を提供していますが、利用者の意向や状態変化に合わせて無理なく日々を過ごせることを重要視しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実践しています。必要な場面で歯科受診に繋げております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	意思表示されない方は、職員から声掛けし付き添うなどして、原則として、トイレ内で排泄できるよう、一人ひとりの状態に応じた介助を行っております。	トイレでの排泄を大切にして排泄パターンや態度を把握し、声かけや誘導をして自立に向けた支援をしているが、夜間は睡眠を優先している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活に密着して体を動かしていただく機会を作るように取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自ら入浴したいと意思表示されない利用者もいることから、誰もが清潔に生活できるよう配慮しています。個々の場面に応じて、特定の時間帯に限らず入浴の機会が得られるよう柔軟に対応しています。	毎日お湯を入れていつでも入浴出来る体制を整え、午前中の希望にも応じ、週に複数回の入浴とし、風呂好きの方には毎日入れるよう対応している。利用者の身体機能に応じて浴槽の左右から介助できる造りになっており、安全に入浴できる様に工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要な方は就寝の声掛けをいたしますが、夜間、眠れないときは、リビングのソファで過ごしていただいたり、簡単な夜食をつまんでいただいたり、都度、意向に沿った支援を行うことで、休息を支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本方針として、減薬や休薬を試みています。また、そのような方向性になるよう医療連携を図っております。有害事象の場合、速やかな服薬休止につながるよう服薬支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書家の人は絵本好きで、美術好きの人は塗り絵好きなど、その人の個性を活かした過ごし方を、一緒に考えながら暮らしています。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F 木ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	生まれ故郷の青森や福島町、昔働いていたイカの天日干し製造工場、毎週通い続けている教会、行ってみたい場所があるなら、ご家族や地域資源と相談し希望に沿うよう支援しています。	暖かい季節は日常的に近所を散歩したり、外気浴を大切にしながら気軽な外出を楽しんでいる。買い物兼ねて外食をしたり、近くの神社の夏祭りに出かけたりしている。年間計画としてドライブを兼ねて遠くの公園や春はお花見、秋は紅葉狩りなどに出かけて、季節の移ろいを五感で感じている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所として個人の金銭管理を行いません。代わりにそれぞれのご家庭の事情に応じて、自由に使えるお金を定めています。その範囲内において、買い物を行うことができます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が書ける方は、お返事を書いたり、個人で携帯電話を持ち込んでいる方もおります。利用者や家族の意向に沿って柔軟に対応しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓を広く取り入れた明るい生活空間になっています。観葉植物を配置して、空間に温かみを演出しています。ソファは、安心して休息していただけるよう頭を乗せることができるものを用意しました。ユニット型の建築空間を採用することでゆったりとした雰囲気を作り出しています。共用ボードに飾りつけし季節感を演出しています。	オープンキッチンを備えた開放的な居間兼食堂を中心に両サイドに居室や洗面所、風呂などの水回りが配置され、動線が遮られない造りになっている。大きな窓からはたっぷりと陽が入り、温度や湿度が適切に管理されている。共有空間のインテリアは季節感や生活感を醸し出すものを厳選して配置し、すっきりと纏めている。観葉植物は事業所内の所々に置かれ、温かい家庭的な雰囲気を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットの状況に合わせて、備品の配置換えをするなど、居場所づくりに工夫を重ねております。狭い空間が好きな方は、スタッフルームを居場所としています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅にある使い慣れたものでお過ごしいただくよう、ご案内しています。過去の刺繍作品を飾る、テレビや仏壇を持ち込まれる、など思い思いの過ごし方ができるよう配慮しております。	各居室にはクローゼットが備え付けられ、お気に入りの椅子や家具を使い勝手よく配置し、思い出の品を飾ってゆっくと寛げる部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	対面キッチンを採用することで、複数人で料理を作れるよう配慮しています。また、ユニット型建築を採用することで、広々とリビングを使うことができます。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400381		
法人名	(株)メディカルオフィス・創健		
事業所名	グループホームひなた園 2F 花ユニット		
所在地	北海道函館市湯川2丁目16番1号		
自己評価作成日	平成30年3月2日	評価結果市町村受理日	平成30年3月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2014.022.kani=true&JigyosyoCd=0191400381-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとお過ごしいただけるよう、8畳分の個室と、ユニット型のフロア、対面キッチンを用意しました。サポートドクターと密に連携しながら適切な医療連携につながるよう取り組んでいます。必要と思われる場面では、速やかな退院支援に結びつくように、医療連携室の相談員と連携しています。今年度は、近所のお寺さんのイベントに参加するなど、地域資源との連携に幅が広がりました。引き続き、生活風景に多様性が生まれるよう地域資源とのつながり強化に取り組んで参ります。ご家族が安心してサービスに関与できるよう、家庭的な関係性の中で家族支援が行われるよう取り組んでいます。十分にできているわけではありませんが、必要とされるご家庭についてはご家族を含めて支援させていただきます。今年の運営推進会議は、毎回テーマを設けて開催しています。テーマを通じて、ご家族と共に介護にかかわる学びと考える場づくりに取り組んでおります。今年度は、学びに力を入れています。毎月の社内勉強会や、外部研修、事業所の理念に基づいた介護が成り立つよう各自目標を設定するなど、サービスの質向上に向けた努力を続けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F 花ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の基本方針に沿って、各職員が『今年のケアの目標』を立てています。その目標が事業所の理念の実践に繋がるよう、個別に相談・支援しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年は、近所のお寺の地域イベントに参加しました。新年会を通じた交流などがあり、事業所の存在を暖かく迎えてくださっております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は、地域住民の集いの場に顔を出すよう心がけており、相談を受けた場合は、適切な介護サービスに繋がるよう支援の窓口になっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎回、テーマを設け、御家族一人ひとりのお考えを共有する、または事業所の運営方針に対する理解を深める場として機能しております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営にかかわる事柄は、市役所に問い合わせる都度、確認を取りながら進めております。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内に『リスクマネジメント委員会』を設け、身体拘束の定義や運用の実際について、勉強会を開催しております。特に、倫理3要件の周知を図っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の趣旨が理解されるよう、社内試験を実施しています。事業所内の『リスクマネジメント委員会』において、不適切なケアにかかわる勉強会を開催しております。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F 花ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は「成年後見制度」について自己学習しております。制度利用の必要性がある御家族には、予め説明することが可能です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、毎回、重要事項説明書の読み合わせを行っております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が面会に来られる際に意向を確認しております。面会ない御家族には、お電話にて御家族の意向を伺うよう配慮しております。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主任制度を採用し、管理者会議の場を設けることで、介護現場と管理者が同じ方向性で仕事ができる環境を作っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業指針の作成と掲示、主任制度の導入、管理者会議の開催、管理者との個別面談、全体会議での勉強会、これらの活動を通じて、働き甲斐ある職場環境の構築に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人目標を設定し個人面談を実施、スタッフ個々の成長課題を把握しています。社内試験の実施を行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム協会の活動への参加を通じて、協会の方針に沿ったサービスの質の向上に取り組んでおります。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F 花ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時やケアプラン更新時に、生活にかかわる意向を本人に確認している。入居後も本人の意向に関する情報は、都度スタッフ間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時は、事前に家族への聞き取りを行い、サービス内容に家族の意向が反映されるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の時点で、グループホームがどのようなサービスであるか説明し、現在の生活環境と比較検討できるよう案内しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活場面において、主体的に参加していただけるよう、適宜声掛けをしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族には、地域イベントへの参加や外食、病院受診など、支援が必要とされる場面で、できる範囲の事柄への関与をお願いしております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切な人との関係性が続くよう必要な支援を行っています。たとえば、ある利用者様は自宅に居る時と同じようにして、毎週、教会へ通い続けることができます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	基本的に自由に生活していただくようご案内しておりますが、介護職員含めて、各入居者様が良好な人間関係を育むことができるよう配慮しています。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F 花ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、支援が必要とされるご家庭については、適宜、相談支援に応じております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活場面での何気ない会話や、その時々表情などから、本人が現在の生活をどのように感じてもらえるか、把握するよう心がけております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にいただいたフェイスシートやアセスメントの情報だけでなく、本人や家族からの聞き取り情報を重視して支援につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りにて、変化や出来事にかかわる情報を細目に共有し、必要な場面で支援内容を柔軟に変化させております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングならびにサービス計画は、本人や家族へ意見を伺うことはもちろんのこと、現場の介護職員の意見を下地としながら作成しており、現状に即した計画になるよう取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を作成し、ケアプランの実施内容とその他の実施内容を区別できるように記録しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	去年は、地域イベントへの企画段階からの参加を実施しました。利用者様が主催の一人となって、地域づくりに貢献する場面だったように思います。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の喫茶店の常連客となって、よく利用しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来のかかりつけ医の受診が継続するよう配慮しています。細かい連携が必要な場面では、事業所サポートドクターと連携し、適切な医療選択に繋がっています。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F 花ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には、準看護師を配置しており、随時連絡できる体制を整えており、サポートドクターとの連携に繋がっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急性高い場面では、受診前に事前に病院に連絡しています。退院案内があった際は、速やかな退院支援に繋がるよう受け入れ態勢を整えるよう取り組んでおります。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針、ならびに終末期指針を作成し、個別の状況に応じて説明を行っております。また、運営推進会議を通じて家族と一緒に終末期介護を学ぶ機会を作っております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内にリスクマネジメント委員会を設け、緊急時対応にかかわる勉強会を開催しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の自衛消防訓練を実施しています。社内試験の問題にも組み込むことで、全職員に事業所の方針を理解していただくよう努めています。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護職に必要とされる職業倫理観を意識して、日頃から仕事に従事するよう指導しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	事前の意思確認はもとより、日常会話の中から本人の意志を汲み取るよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に合わせた生活の提案や、直近の生活ぶりを踏まえた関わりなど、本人の意思表示以外にも配慮すべき点を日頃から話し合っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り、本人の意志確認を行いながら進めています。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F 花ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食事の好みや口腔状態に応じて、食事形態を選択できるよう、柔軟に対応しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的に、バランス良い栄養確保に配慮して食を提供していますが、利用者の意向や状態変化に合わせて無理なく日々を過ごせることを重要視しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実践しています。必要な場面で歯科受診に繋げております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	意思表示されない方は、職員から声掛けし付き添うなどして、原則として、トイレ内で排泄できるよう、一人ひとりの状態に応じた介助を行っております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活に密着して体を動かしていただく機会を作るように取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自ら入浴したいと意思表示されない利用者もいることから、誰もが清潔に生活できるよう配慮しています。個々の場面に依りて、特定の時間帯に限らず入浴の機会が得られるよう柔軟に対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要な方は就寝の声掛けをいたしますが、夜間、眠れないときは、リビングのソファで過ごしていただいたり、簡単な夜食をつまんでいただいたり、都度、意向に沿った支援を行うことで、休息を支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本方針として、減薬や休薬を試みしています。また、そのような方向性になるよう医療連携を図っております。有害事象の場合、速やかな服薬休止につながるよう服薬支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書家の人は絵本好きで、美術好きの人は塗り絵好きなど、その人の個性を活かした過ごし方を、一緒に考えながら暮らしています。		

グループホームひなた園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F 花ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	生まれ故郷の青森や福島町、昔働いていたイカの天日干し製造工場、毎週通い続けている教会、行ってみたい場所があるなら、ご家族や地域資源と相談し希望に沿うよう支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所として個人の金銭管理を行いません。代わりにそれぞれのご家庭の事情に応じて、自由に使えるお金を定めています。その範囲内において、買い物を行うことができます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が書ける方は、お返事を書いたり、個人で携帯電話を持ち込んでいる方もおります。利用者や家族の意向に沿って柔軟に対応しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓を広く取り入れた明るい生活空間になっています。観葉植物を配置して、空間に温かみを演出しています。ソファーは、安心して休息していただけるよう頭を乗せることができるものを用意しました。ユニット型の建築空間を採用することでゆったりとした雰囲気を作り出しています。共用ボードに飾りつけし季節感を演出しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットの状況に合わせて、備品の配置換えをするなど、居場所づくりに工夫を重ねております。狭い空間が好きな方は、スタッフルームを居場所としています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅にある使い慣れたものでお過ごしいただくよう、ご案内しています。過去の刺繍作品を飾る、テレビや仏壇を持ち込まれる、など思い思いの過ごし方ができるよう配慮しております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	対面キッチンを採用することで、複数人で料理を作れるよう配慮しています。また、ユニット型建築を採用することで、広々とリビングを使うことができます。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ひなた園

作成日：平成 30年 3月 29日

市町村受理日：平成 30年 3月 29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災や様々な自然災害の避難時に非常持ち出し品として、利用者の氏名や処方箋、家族の避難場所などの情報を記載したカードを準備して、すぐに持ち出せるような場所に保管して置く、取り組みを期待したい。	全利用者の医療状況と介護情報がいつでもわかる状態にし、災害時に速やかに持ち出し可能な状態をつくる。	フェイスシートを一つに綴り、3ヶ月毎に情報更新し保管する。保管場所を用意し、周知を図る。訓練時に、情報シート持ち出しも手順の一つに組み込む。	6ヶ月以内
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。